

## 座長のまとめ

# 第1群の座長をつとめて

岡 田 ふみ子

(石川県立総合看護専門学校)

第一群は、5つの演題発表がありました。特に一貫したテーマはありませんが、どのような看護ケアが必要か実態を明らかにしようとしたものでした。

第1席の金沢赤十字病院・向田文さんの発表は、尿漏れ防止のために必要以上のオムツが当てられている現状から、必要最小限のオムツを効果的に当てる方法はないものかと研究に取り組んだものでした。そして膝・股関節に拘縮のある女性患者さんでは、拘縮の種類によって汚染箇所が二分され、それぞれに効果的な当て方があるという内容でした。会場からはオムツカバーの使用と体位変換によるオムツ汚染の位置に関する質問がありました。オムツカバーの使用を前提としている質問者とオムツカバーを使ったことのない発表者との間で質問の意図が伝わらず、曖昧になってしまいました。排尿時の体位によるオムツ汚染の位置の違いとその効果的なオムツの当て方については、私も興味のあるところでした。

第2席の石川県立高松病院・岡田まりさんの発表は、日々無為に過ごしがちな重度知的障害者に集団レクリエーション活動を計画実施し、問題行動の出現回数、社会性及び反応性を評価したものでした。活動内容は、音楽、散歩、絵画、売店、アロマセラピーで、会場から音楽で用いられる曲目、アロマセラピーで用いられる香料の種類等の質問がありました。

第3席の金沢社会保険病院・野村り美さんの発表は、脳神経外科開頭術を受け通院している患者さんを対象に、現在の開口障害の程度と術後の意識障害期間、食事開始時期との関連をみたものでした。会場からは、開口障害の定義についての質問がありました。

第4席の石川県立中央病院・石崎由貴子さんの発表は、切迫流早産で入院中の妊婦に対して半構成的面接法でデーター収集し、ストレスを4因子23カテゴリーに分類したものでした。会場から面接に関して1回あたりの人数、担当者等面接に隔たりがないような工夫についての質問がありました。

第5席の金沢大学医学部附属病院・麻生美幸さんの発表は、胸部外科病棟多床室における間仕切りカーテンの快適な使用方法について検討したものでした。会場からはカーテンを閉め切るとはどの程度かという質問がありました。

本来質疑応答により、さらに内容が深まっていくものですが、今回は、時間を気にするあまり、2席目以降は質問を一つお受けするだけになってしまい、深まるには至りませんでした。多少時間が超過しても、有意義な討論の場となれば皆様に満足していただけたらと思います。限られた時間の中で、質問者は内容を簡潔にまとめて質問することが鍵であり、座長としてそれをうまく橋渡しすることの難しさを強く感じました。